

(1) 転居の連続

丸山眞男は1914(大正3)年3月22日、大阪府東成郡天王寺村(現在の大阪市阿倍野区)で生まれた。

父は丸山幹治(侃堂)、母は丸山セイ(画像:左から丸山眞男・丸山幹治・丸山鐵雄〈丸山彰氏提供〉)。丸山



家が当地に居住していたのは、このとき幹治が『大阪朝日新聞』の記者だったためである。丸山が生まれたこの3月に幹治はアメリカに派遣され、日本を後にした。セイはその荷づくりに追われ、丸山を早産したという。幹治はアメリカとイギリスにあって折りしも勃発した第一次世界大戦の報道に携わり、帰国したのは1916(大正5)年12月のことであった。

丸山の本籍地は幹治が生まれた長野県埴科郡清野村で、大学卒業後の1937(昭和12)年ここで徴兵検査を受けている(のちに本籍地を移している)。清野村は新劇女優・松井須磨子の出身地でもある。丸山家は松代藩・真田家(10万石)の足軽身分。明治維新の際に松代藩は新政府方に与したが、幹治の祖父・清蔵は戊辰戦争に従軍して戦死した。

1952(昭和27)年6月に東京女子大学近くの東京都武蔵野市吉祥寺319番地に居を定めるまで、丸山は転居を繰り返した。その居住地を一覧にすると次のようになる。

大阪府東成郡天王寺村(1917年まで)

兵庫県武庫郡精道村大字打出(1917年から1920年まで)

※この間、1918年から翌年にかけて幹治らとともに東京に居住した可能性があるが

未詳

兵庫県武庫郡精道村大字芦屋（1921年春まで）

東京府東京市四谷区麴町12丁目（1922年まで）

東京市四谷区愛住町48番地（1931年5月まで）

東京市外高井戸町大字中高井戸37東12番地（1944年3月まで）

※この間、第一高等学校在学中は学生寮に入る

東京都杉並区天沼1丁目（1944年11月まで）

※この間、1944年7月に入営して朝鮮に向かうが病気で同年10月に召集解除

杉並区西高井戸2丁目（1946年春まで）

※この間、1945年3月に入営し、敗戦まで広島市で過ごす

目黒区宮前町64番地（1952年6月まで）

東京都武蔵野市吉祥寺319番地（1996年の死去まで）

このような生い立ちをもつ丸山が、特定の地域と結びついたアイデンティティを自認することはあっただろうか。師の南原繁（1889～1974）に「君はハイマートロス〔heimatlos 故郷喪失〕だ」とやられたと回顧するときも、南原に反論したとは語られない。